

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0690700398		
法人名	社会福祉法人 櫛引福寿会		
事業所名	グループホーム はもれび		
所在地	山形県鶴岡市下山添字茶屋川原75		
自己評価作成日	令和 3 年 5 月 10 日	開設年月日	令和2年 4 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
 基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 3年 5月 18日	評価結果決定日	令和 3年 6月 7日

(ユニット名 かえで)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年度から引き続いてのコロナウイルス感染症拡大のため、外部との交流や外出などの自粛規制していました。面会もガラス越しでの対応となり利用者ご家族様には本当にご迷惑をおかけしております。昨年度開設当初から施設内での活動が主な取り組みとなってしまいました。しかし、日常生活の自立支援、認知症予防、健康管理に念頭にスタッフと利用者の皆さんと一緒に日々楽しみながら生活しています。笑い声が聞こえ、食事やおやつの香りが施設内に漂い、そんな日常生活を穏やかに送っていただきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や掲示板、各ユニットの目につくところに基本理念と基本方針と処遇方針を掲示しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過の中で地域との交流ができず地域の文化祭への作品出品、サルビアなどの花の植栽をして地域の皆さんや施設の前を通る方々に楽しんでもらったり、挨拶をしたりしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ過のため地域の方々への貢献はできていないのが現状である。職員の駐車場から施設までの通勤時に空き缶やごみ拾いなどしています。施設前でのお茶の時間を過ごしなが、通りすがりの人への挨拶などしながらグループホームの在り方を伝えいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナ過の自粛中で、定期的な運営推進会議は開催できず、利用者の生活状況や活動内容などを記した文書を2ヶ月毎に発送しています。委員の皆さんからも特に評価などは頂いておりませんが、コロナ終息した際には、いろいろな意見をいただきながら施設運営に活かしていきたいと思っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度から高齢者福祉事業所情報交換会に参加する予定で、意見交換しサービスの向上に努めます。また、入所が必要と思われる方の情報などの連絡調整を進めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	毎月のユニット会議内で、身体拘束に当てはまるかの事例が発生した場合にはスタッフ内で検討し、拘束しない方向での対策をとるようにしている。そのような事例があった場合には違うユニットの会議の中で検討し施設全体で共通認識を持つようになっています。施設開所当初には無断外出された利用者が数名いたため玄関施錠した経緯はありましたが、玄関前の事務室にスタッフがいる場合以外は現在はセンサー設置で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のユニット会議内で虐待に当てはまる事例が発生した場合には、スタッフ内で検討し、虐待の無い対策をとるようにしているが、開設当初から今まで虐待やそれに当てはまるような事例は全くといって無し。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援のなかで、今後成年後見制度の研修をしていく。開設当初から成年後見制度を利用している利用者がおらず、今後そのような利用者の入所されることがあれば対応していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者・リーダーより家族等への十分な説明を行い、疑問などがあればその都度説明して承諾をいただいている。入所後もなにか疑問などがあればその都度説明するようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ過の中で玄関での面会可能な時期もあったが、玄関に準備している記入用紙に要望、意見、苦情などの記入した人はなし。今後施設からのお便りなどを送付するように計画しているが、意見要望の記入欄を設けるように考えている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の日常会話やリーダー会議やユニット会議の中で困っていることがないか、疑問に思うことなどを話しやすい雰囲気づくりをしながらスタッフの意見を聞くようにしている。ユニットリーダーに相談したうえで管理者に相談してくることもあり、リーダー会議で検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や研修会参加の希望があれば推奨できるような職場環境に努めている。スタッフの精神的リフレッシュや自己都合による希望休をできるだけとれる体制をとっています。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人スタッフについては主にリーダーに指導を受けながら当面の間、業務同行しての方法で取り組んでいる。他のスタッフも日常生活の中やユニット会議内でのケアの方法を話し合い情報共有し個々のスキルアップにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	特に交流する機会がなく、今後そのような機会があれば意見交換等でサービス向上に向けていく。今年度より地域の高齢者事業所情報交換会に参加する予定。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に担当ケアマネとの連絡をとりながら、事前面接にて生活歴や本人の情報を聞き取りし、本人との会話を重要視し、今後のこでの生活に対して安心して生活できることを説明していく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の希望や要望を聞き取りし、利用者がこの施設での生活していく上で、面会時などに訪れた際に本人の様子など伝え、家族の協力を得られるように信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接等での情報を基に家族や本人の必要と思われることを聞き取りして、管理者、ケアマネ、看護師、リーダーを中心に検討してサービス計画書を作成するようにしている。初期対応としては施設に早く慣れていただくようにスタッフが他の利用者とのコミュニケーションを多くとるように支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来ることを見つけだし、洗濯ものたたみや掃除などしたり作業している際や、食事の準備や食事を一緒に食べたりしながらコミュニケーションをとるようにしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には利用者の生活状況を出来るだけ詳しく説明し、必要なものがあつたら家族依頼したりして信頼関係を築くようにしている。また、受診が必要な場合にも家族に状況説明して協力を取りあっています。家族が遠方で面会ができない場合にも定期的に文書や写真を含めた生活状況をお知らせすることなどが課題であると考えています。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過の中での床屋や面会などは制限されることが多く、家族や知人が面会にきた際には十分な時間を過ごしていただくことができなかった。コロナ終息することになれば友人知人にも面会に来ていただくなどの支援をしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活のなか、レクリエーション活動やスタッフの対応で利用者の方々のなじみの関係ができています。食堂の席も利用者同士の関係性や見守りできる安全性を考慮しながら決めています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した後でも、ご家族様から相談等があれば対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活している中でスタッフが気づいた点や本人の気持ちを聞いたことに対してスタッフ全員が共有できるように毎月のユニット会議で話し合ったり検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族にどのような生活をしてきたのか、生活歴なども入所前に聞き取りし、サービスに取り組むようにしている。生活している中で新たに発見した本人の情報も毎月のユニット会議でスタッフが共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	主に施設側の日課に合わせた生活しているが、利用者本人には強制強要することはせずに自由な時間を持てるようにしている。毎朝のバイタル測定時に血圧や体温の他にも、表情や声掛けに対する反応などの精神面やいつもと違ってないかにも気をつけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の意見や要望を聞き取りし、スタッフの意見をもとにカンファレンスを行い、その人に合ったケアプランとなるように努めている。コロナ過の中で家族の意見は細かいところまで聞き取ることが出来なかったところがある。ケアプラン作成して家族に説明して承諾をいただいている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の普段の生活から、利用者個人個人の健康面や生活全般において居室担当やスタッフが気づいたことなどを毎月のユニット会議で検討しており、その検討したことについてケアプランに反映するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事やいろいろな活動に参加できる体制づくりを検討し、利用者が楽しめる生活を送れるようにしていったかった。その中で地域の文化祭への作品出品や文化祭見学や買い物に行くなど支援し、コロナ過の中にあってもできることをしていきたいと考えています。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回の協力医の往診日を設定しています。また、他のかかりつけ医への受診の際には家族の付き添い通院を基本とし、日常の情報提供書を作成し、家族に説明したうえで医師に渡しています。			
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師兼務のスタッフが常駐しており、健康面や精神面、身体面にいつもと違ったときなど報告している。また、看護師リーダーが早急な受診が必要と思われる場合には家族に連絡し受診の依頼、できない場合には施設で対応している。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医、かかりつけ医に相談したうえで、入院すべきと判断した際には家族に依頼するようにしている。入院後も病院側と連絡を密に治療経過などの情報交換を行うようにしている。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約時に重度化や終末期・看取りに関する指針を提示説明し、入居時時点での思いと同意書をいただいている。そのような状態になった場合の家族の気持ちの変化にも対応する旨を伝えています。重度化した場合には同法人の特養への支援も行っている。現在まで終末期を迎えた利用者はいないので、今後そのケースが出てきた場合には協力医と相談していくようにします。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時は協力医への連絡と管理者・リーダーへの連絡をとる体制をとっている。緊急を要する場合は救急車の要請・家族への連絡をして対応するようにしています。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと防災訓練、施設独自での避難訓練を定期的に行っている。昨年はコロナ過の中、消防署立ち合いの避難訓練は一回のみとなってしまった。日頃の生活の中で利用者の皆さんには非常口の場所や避難経路を説明している。今年度は水害や地震の災害時の対応や備蓄について進めていく予定。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴などプライバシーを確保した対応を行っており、声掛けにも利用者それぞれ尊重した態度と言葉で対応するようにして本人の気分を損なわないようにしている。			
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活支援の中で、本人の発する言動に注意して本人の希望などを言えるような環境づくりをしている。外出や買い物などの要望にもかなえることができないことが多かった一年であった。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設側の日課（食事の時間や入浴）に合わせた生活していることが多いが、利用者本人には強制強要せず、できるだけ自分の自由な時間を持てるようにしている。レクリエーション活動などにも声掛けなどして参加を促すこともするが本人の意思にお任せしている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	担当のスタッフが季節にあった衣類の整理と家族への連絡をして持参していただくようお願いしている。床屋は希望時に連絡をとり施設に来てもらったり行きつけの理美容店に家族より連れて行っていただいている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月行事食を設定し、利用者の皆さんに喜んでもらっている。盛り付けや配膳、下膳や食器洗いもスタッフが見守りしながらやっている。また、食事以外にも誕生日やお祝い等のおやつも楽しませています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事の摂取量、一日の水分摂取量を記録している。口腔内の状態、摂取状況、本人の好き嫌いなどをスタッフが確認している。食べられないものについては代替えを準備している。夏季に向けて水分摂取を多くとるようにしています。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している利用者以外には声掛けや見守りをしている。出来ない方へは声掛けと介助で対応。夕食後のみ義歯洗浄剤使用し夜間帯に消毒し清潔を保つようにしている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々の排泄について、スタッフが情報を共有し排泄の失禁や失敗した際の状況を確認し、排泄のサインをスタッフ同士が共有するようにしている。排泄記録を確認し排泄の間隔が長く開いている場合にはトイレ誘導・声掛けしている。			
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のヨーグルトの提供と、毎日果物や乳製品、お茶やコーヒーなど水分を提供している。排便チェックと本人に確認しながら下剤などでのコントロールしている。また、施設内を歩いたり食事前に体操をして体を動かすことなどの運動も実施している。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は施設側で計画をたてているが、本人が拒否あれば無理に入浴することはしないで、声掛けするスタッフが変わってみたい、午後や翌日に変更するなどしている。週2回の入浴を基本に実施し、自分では洗えない箇所を介助するのみで、できることは見守り対応しています。			
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事やおやつなどの時間は決まっているが、利用者が自分のペースで居室で休まれるようにして自由な生活を送っており、声掛けした際には本人の意思に任せています。水分や食事などの声掛けには少し多めに声掛けしています。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤説明書と一緒に薬もファイルに入れて保管場所に置いてある。薬の管理全般を兼務の看護師がしており、毎日毎食の薬の準備、スタッフが毎食の薬を確認しながらセッティング服薬介助して誤薬に気をつけている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味ややりたいことの把握に努め、できるだけそのことが実現できるように支援しています。日々の暮らしの中に趣味活動や歌、パズルゲームや体操などを取り入れています。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見ドライブや天気の良い日の散歩などの支援はコロナ感染が一時的に落ち着いた時に行ったが、もっと外へ出る機会があればよかったと感じる。コロナ過の中でスタッフの人員の調整などから実施できないことが多くなってしまい、コロナ過終息後の課題としている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人と家族の希望に応じて金銭管理できる人に限り、自身で所持してもらっているが、ほとんどが施設側で管理している。外出しての買い物機会はなかったが、外出できる状況になったら個々に持たせ買い物する喜びを得られるようにしていきたい。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や手紙などには対応している。本人から電話を掛けたいなどの希望があれば施設の電話を利用してもらう。個人で携帯電話を持っている方は自由に連絡をとっている。希望があれば手紙や年賀状など出せるような支援も行っている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビング、玄関に観葉植物や花、利用者の作品や装飾品で飾り付けをしておき施設内が明るく、清潔な環境になっている。コロナ対策として一日の中で換気を行っているので気温が下がる上がる際は利用者の皆さんに声掛けしています。また、季節にあった利用者の作品を飾ったり、家族からの山菜や果物などの差し入れなどで季節感を感じてもらっています。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には気の合った利用者同士が談話できるスペースを利用できる。数名で談笑していることもあり笑い声が聞こえる。時々一人になりたいときにも外の景色を眺めながら過ごしている方もおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用しているものの持ち込みをお願いしていましたが、購入したタンスや家具を持ち込んでもらいました。その上には思い出の写真や愛用品を置いたりして自分の思い通りに過ごしやすい環境を作っている。テレビなどの騒音(本人は難聴のため)があつたりすることもあり、時々苦情もあつたりするが、スタッフがその都度対応しています。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで、トイレや廊下には手すりを設置しており安全に移動できる作りになっている。自分の部屋の扉に名前や入口に目印となるものを置いている。トイレにも少し大きめの表示を取り付けてわかりやすくしている。		